

地域美産研究・探訪会ニュース No.43

発行：平成 18 年（2006 年）12 月 18 日

第 43 回催事 美産会顧問 外山晴彦さん企画案内「庶民信仰の石仏美産探訪会」

探訪会：平成 19 年 1 月 20 日（土）

『 日暮里から駒込へ、上野台地に江戸の石仏美産を訪ねて、 庶民信仰の形と楽しみを学ぶ 』

徳川家康が開いた江戸幕府 265 年の歴史は、政治を担う武家の社会を裏で支えた商人職人たち庶民の生活発展史とも言えます。江戸幕府から大名、旗本、御家人、地方武士まで、武家の社会が必要とした膨大な消費需要はそれを賄う町方の懐を着実に潤し、日頃の生活から生き抜きの世界まで、庶民の暮らしぶりを確実に向上させました。



上野台地を飛鳥山へ貫ける小道

西郷隆盛の銅像が立つ上野から王子へ続く上野台地は、谷中の寺町から桜の名所飛鳥山まで、幕府が政権を裏から支える庶民の為に、息抜き娯楽の場として整備した地と言われている台地です。

谷中から始まって日暮里・田端に連なる寺町台地と、北へ下り駒込に到る小道筋には、江戸庶民の信仰を司る小さな寺院たちが散在し、境内には様々な石仏たちや神仏混交の足跡も遺る大変面白い小道通りです。

講の仲間たちが、夜通し寝ないで会食を楽しみ語り明かす庚申信仰のシンボル、庚申塔。その多様性を知ることもこの探訪会ならではの特徴です。或る寺院の境内では、江戸に居ながら富士登山ができる富士塚を見付けて、江戸形富士講信仰の特徴も学びます。

今回の企画案内人は、神社寺院や野仏探訪の第一人者で、地域美産会アドバイザーの外山晴彦さんです。外山さんは難しい事柄を易しく解説する才能の持主。その解説を楽しみながら、信仰に事寄せた江戸庶民たちの息抜きと娯楽の場を巡ります。



田端 与楽寺境内

外山 晴彦



1941 年東京生まれ、早大政経学部卒。東京図書(株)勤務後、雑誌の取材・編集・企画を経てフリーライター。長年に亘り地域の神社寺院と境内の各種構築物、各地に散在する野仏・石仏等の探訪を続ける。

主な著書：「神社ウォッチング」東京書籍、「神社の見方」小学館、「野仏の見方」小学館。主な講座：世田谷区民講座「身近な社や庚申塔のウォッチング」2002 年、学習院生涯学習センター「神社・野仏のウォッチング」2001～2004 年、NHK文化センター前橋教室「野仏・石神を訪ねて」2005～2007 年（毎年各 6 回）。「神社ウォッチングの会」会長、「三梢会」顧問。

第43回催事

地域美産会アドバイザー 外山晴彦さん企画案内「庶民信仰の石仏美産探訪会」

『日暮里から駒込へ、上野台地に江戸の石仏美産を訪ねて、
庶民信仰の形と楽しみを学ぶ』

探訪会（研究会を兼ねて）

日 時	平成19年1月20日（土）13:00～16:30頃（雨天決行）
集 合 時 間 ・ 場 所	13:00 JR日暮里駅 北口（大宮方向階段登る）改札口外側。
探 訪 コ ー ス（ 予 定 ）	養福寺→浄光寺→諏訪神社→道灌山→与楽寺→田端八幡→ 東覚寺→日枝神社→大久寺→上田端八幡→大竜寺→円勝寺 ほか
案 内 と 解 説	外山晴彦
参 加 人 数	25名
探 訪 会 参 加 費	¥1,500（会員）他。詳細は3ページ参照
個 人 費 用 負 担	有料訪問先入場料などの現地費用。
昼 食	集合時間迄に各自で。お勧め店は蕎麦店「川むら」（詳細は下記で確認）
遅 刻 等 の 連 絡	080-3003-5277（福原）、090-8772-4216（外山）

お昼の立ち寄り推奨店（集合前に各自のお好みで）

日暮里駅北口改札を出て左（西）へ徒歩1分。 坂を上りきった右側の小綺麗な蕎麦店「川むら」 （セブンイレブンの向かい側） 電話：03-3821-0737	名 物	季節の変わりそば。今は“柚子きり”等
	値 段	500円（盛、かけ）～
	席 数	テーブル数5～6の小店
	住 所	荒川区西日暮里3-2-1

交歓会（事前参加申込と振込み必要）

駒込駅南口 「やきとり 駒込松本」	日 時	1月20日（土）17:00～19:00
	お 店 の 名 前	「やきとり 駒込松本」
	料 理 と 飲 物	上味の焼き鳥セットと酒ビールなど
	参 加 人 数	15名。
	参 加 費	¥4,000
	住 所 と 電 話	駒込1丁目24-10（03-3945-9920）

第43 回催事 「庶民信仰の石仏美産探訪会」

参加申込書

記入日： 年 月 日

- ① 1月17日（水）迄にこの申込書をメール、FAX（03-3407-5247）か郵送で。

ふりがな		性別	男・女	年齢	才
氏 名		職業			
住 所	〒				
生年月日	大正/昭和（西暦）年 月 日				
会員資格	① 一般 ② 会員 ③ 賛助会員 ④ 特別賛助会員				
Tel(自宅)		Fax			
Tel(携帯)		e-mail			
②会員の家族会員は2名まで、 ③賛助会員・④特別賛助会員の家族・法人は1名まで、特別割引料金で参加できます。					
ふりがな		性別	男・女	年齢	才
氏 名		職業			
ふりがな		性別	男・女	年齢	才
氏 名		職業			

- ① 参加記入欄（該当金額欄に○を付けて下さい）

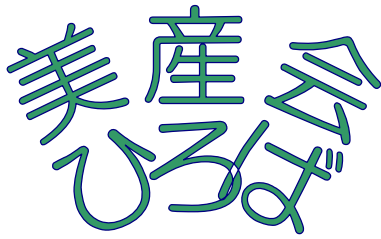
	1 探訪会	2 交歓会	3 全参加料金計
会員	1,500	4,000	5,500
家族会員（1名分）	1,500	4,000	5,500
賛助会員	1,200	4,000	5,200
賛助会員の家族か法人（1名）	1,200	4,000	5,200
特別賛助会員	0	4,000	4,000
特別賛助会員の家族か法人（1名）	0	4,000	4,000
一般参加者	3,000	4,000	7,000
*学生と地元関係者	1,500	4,000	5,500

* 当会の活動が学生と訪問先の地域活性活動に貢献するよう、特別参加費枠を設定。

参加申込と受付 会員優先で申込先着順とします。以下の申込手続きに従って申し込んでください。

1. 参加申込欄の記入事項欄に必要事項を記入し、メールかファックス又は郵送で事務局へ。
2. 事務局から参加枠確保の連絡を受けて、指定振込口座（みずほ銀行青山支店普#2341030, パブリックアート研究所）に貴方の参加料金を振込料自己負担で振り込み。
3. 振込み無き場合は貴方の参加枠を喪失します。
4. 振込み済み料金払戻し；主催者側瑕疵の場合を除き払戻不可。
5. 申込締切日：1月17日（水）
6. 探訪会の傷害事故補償：美産会が費用負担する損保ジャパン「レクリエーション保険」で補償。

- ② 貴方の振込金額（上欄○印金額の合計を記入）： ￥



薬の神さん・神農祭と船場の地域美産について

昨年京町家美産会で探訪した秦家(市指定)は、小児薬の太子山奇應丸を扱っていました。この近所にある五條天神宮から江戸時代に少彦名命を勧請して、大阪船場の道修町に少彦名神社は創建されました。この少彦名神社の神農祭をテーマに、今回の大阪美産会を企画いたしました。

北船場で働き暮らしてきた地元の篤いもてなしと、船場の地域美産を保存維持されている方々から直接お話を伺えたのは、またとない良い機会となりました。大阪市中央公会堂(国重文)での研究会は、「伝統を守るなにわの会」の清水路子さんに船場の慣わしと、なにわコトバについて伺いました。私は薬の神さんである神農さんが、中国古代の伝説上の帝であり、「君主も民と共に農耕に従事すべし」というお話をしました。

探訪会では、少彦名神社の宮司・別所俊顕さん、船場の商家・小西家(国重文)の小西哲夫さん、生駒ビル(国登録)の生駒伸夫さんから貴重なお話を伺うことができました。この方々は、まちづくり運動の先駆けである大阪青年会議所の先輩というご縁でお願いすることができました。また、地元大阪から参加の方々からは、アットホームな雰囲気に参加できたと嬉しい言葉をいただきました。これを機会に、関西と関東の美産会の交流を一層進めて参りたいとおもいます。今回ご参加の皆様、ここに謹んで御礼を申し上げます。

大阪美産会 企画・案内 橋本 完

(国重文)；国指定重要文化財、(国登録)；国登録有形文化財、(市指定)；市指定文化財

11月22日(水)産経新聞朝刊で、偶然に今回の大阪道修町の美産会を知りました。取りあえず大阪市中央公会堂に駆けつけて、道修町の神農さん(神農祭り)の美産会に飛び入りさせて頂きました。研究会では橋本さんの丁寧な説明で、たくさんのことを再発見・再確認いたしました。また清水講師による船場ことばのお話しは「細雪の世界」を彷彿とさせる興味深く楽しい、また考えさせられるお話しでした。

大阪で生まれ育ち、「心ぶら」(心齋橋通りをぶらぶら散歩する)に父親に連れて行ってもらったり、大人になってからも、夫婦善哉をいただき、水かけ不動に手を合わせたりして楽しんでいましたが、今回は大変有意義であり、たたく楽しませていただきました。

翌23日、探訪会のコニシ記念館で「畳のヘリは踏まない」といわれたように、些細なことですが、古くからのいろいろな日本の美を常日ごろ感じていけるように、自分なりに皆さんについて行けたらと思います。

「ハチドリの一とせずく」のように、このご縁に感謝いたしております。有難うございました。

豊中市 臼井 正子

大阪中之島、北船場で行われた大阪美産会に参加させて頂きました。私どもは大阪で創立80年を迎えた建築設計事務所で、建築と地域(特に関西)の歴史と文化との係わりを大切に建築設計に携ってまいりましたことや、今回の美産会の企画・案内の労をとって頂いた橋本さんと私どもの会社社長とは以前より知り合いの関係であったこともあり、はじめての参加ではありましたが、なにか昔から縁があったように感じました。

今回の美産会の舞台となりました中之島は文化・行政の中心として、北船場は太閤さんが街区の基礎(太閤下水は今も現存)を築き、江戸期には米相場を動かし、近代では株・金融(銀行)の中心であつた北浜、医薬の発祥の地である道修町に代表される「なにわの商人」の活躍の場であり、近年まで地域の文化・宗教・家業を中心とした町衆の生活が息づくところでありました。

探訪会では、一度は訪れたかった「神農さん」とよばれる「少彦名神社」の宮司さんの、旧小西(儀助)家では5代目当主の、また、生駒時計店では現当主からの説明を聞き、それぞれの生きた歴史を「見聞」できたことが一番楽しい時間でした。研究会では「なにわ(船場)ことば」の研究家でもある清水路子さんのお話を聞きましたが、街は時代とともに変化し、なにわことばもそうですが、そのなかで営まれてきた生活と文化が惜しまれながらも消えていくものがあります。

今、北船場も外部からの資本や人により大きく変わろうとしております。ただその変化は文化や歴史と無縁のものであってはなりません。美産会は地域の歴史的文化財の再認識とともに、そのなかで変化しながらも今も残る「美しきもの」を発見し再生する糸口を見つかる場であればと思います。私もすこしでもお役にたてればと考えております。会の発展と皆様との和が広がるように、今後ともよろしくお願い致します。

地域美産会 会員 株式会社安井建築設計事務所 水間 茂